

## 2019年3月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500hPa 高度をみると、極渦の中心は、バレンツ海とカナダ東部付近に位置した。東シベリア～北大西洋とヨーロッパ東部～西シベリアで波列パターンが明瞭となった。西・中央シベリア南部、アラスカ付近、北大西洋中緯度帯で正偏差、東シベリア、米国の西海上で負偏差となった。200hPa 風速をみると、北アフリカ～ユーラシア大陸の亜熱帯ジェット気流は、平年と比べて強かった。海面気圧をみると、バレンツ海とグリーンランド南西部付近で負偏差となり、カムチャツカ半島付近ではアリューシャン低気圧が発達した。米国西部付近～北大西洋中緯度帯では正偏差となった。850hPa 気温をみると、西シベリア～東アジア、アラスカ付近で高温偏差、カナダ東部を中心に低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、南インド洋熱帯域の中部、北太平洋熱帯域の西・中部で活発、ニューギニア島の東～南太平洋熱帯域の中部、北太平洋熱帯域の東部、北インド洋東部～フィリピン付近で不活発だった。対流圏上層では、北インド洋～北太平洋西部で高気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、フィリピンの東で低気圧性循環偏差、日付変更線付近、太平洋東部で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、赤道域では、南米～アフリカ～インドネ

シア付近で正偏差、太平洋中・東部で負偏差となった。南方振動指数は-0.4だった。

### 世界の天候

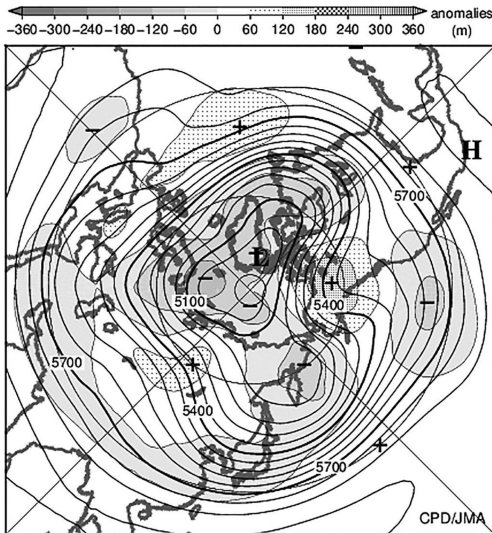
2019年3月の世界の月平均気温偏差は+0.45°C（速報値）で、1891年の統計開始以降、3番目に高い値となった。3月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.88°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

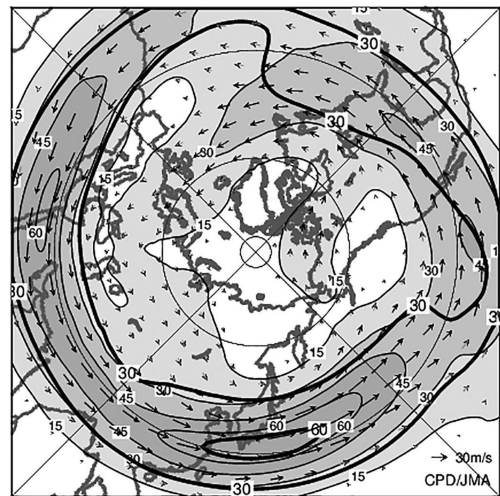
- 東アジア東部及びその周辺、中央シベリア～西シベリア北部、アラスカ及びその周辺、オーストラリア東部～ニュージーランド南西部、オーストラリア北部～西部で異常高温、ボリビア南部～アルゼンチン北部で異常低温となった。
- ロシア北西部～ドイツ北部、パラグアイ～アルゼンチン東部で異常多雨、カナダ南西部及びその周辺で異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

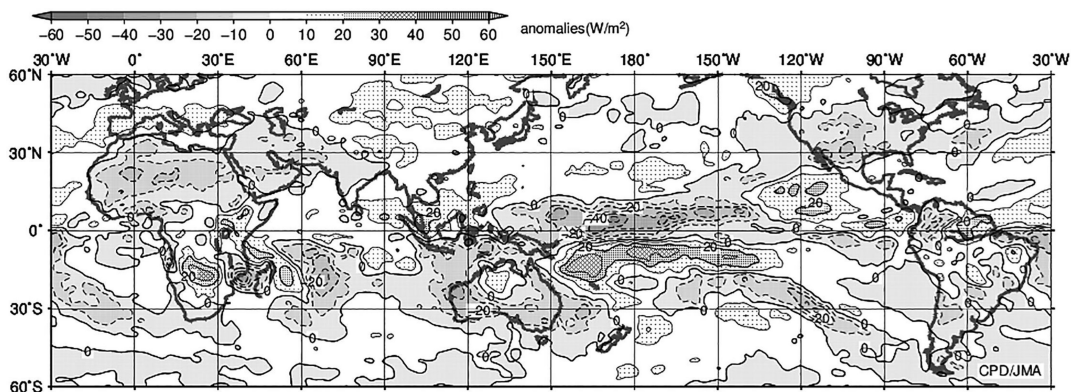
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。  
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



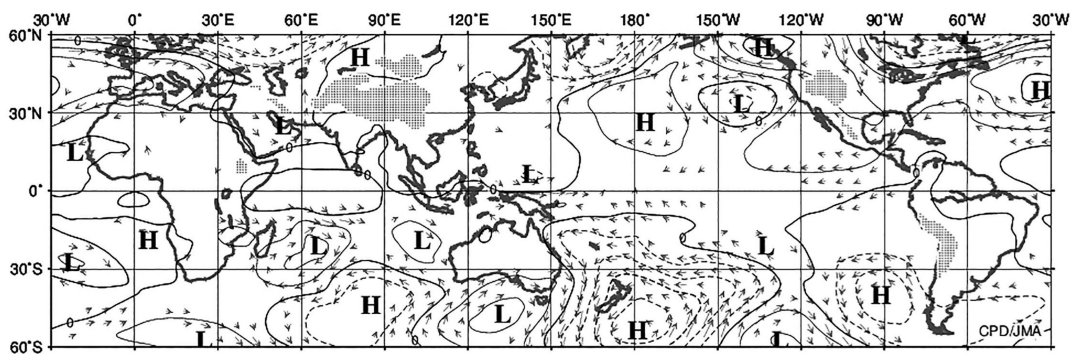
2019年3月の北半球月平均500hPa高度及び  
 年偏差  
 等値線間隔は60m、陰影は年偏差、年値は  
 1981～2010年の平均値。



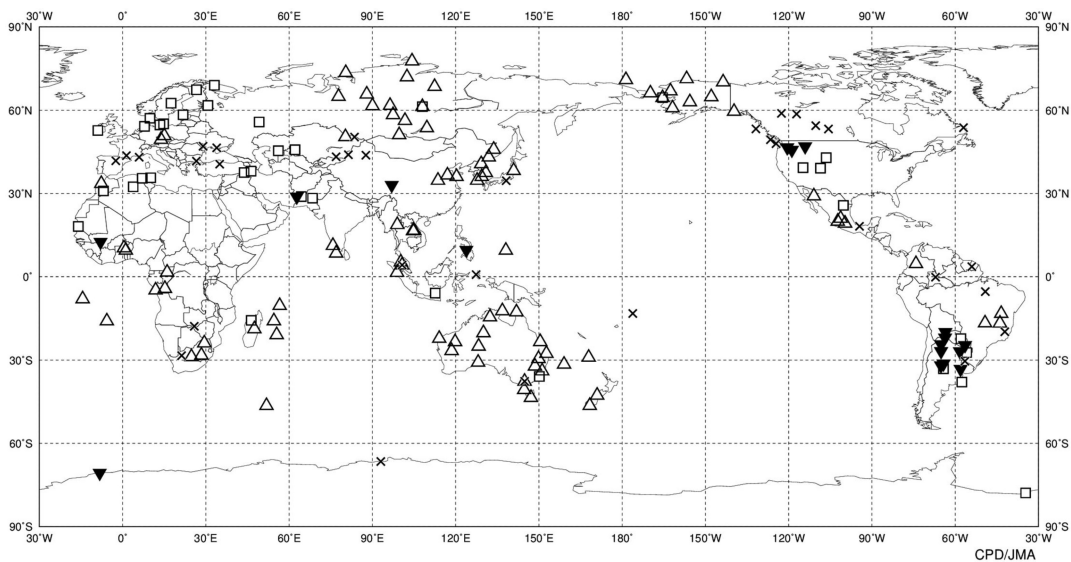
2019年3月の北半球月平均200hPa風速及び  
 風ベクトル  
 等値線間隔は15m/s、太実線は年値で等値  
 線間隔は30m/s、年値は1981～2010年の平均  
 値。



2019年3月の月平均外向き長波放射量年偏差  
 等値線間隔は $10\text{W/m}^2$ で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋  
 大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。平年値は1981~2010年の平均値。



2019年3月の月平均850hPa流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年の平均値。



2019年3月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。